

I はじめに

有機農業については、消費者の拡大するニーズに応えるとともに、地域の農業の振興、持続可能な食料システムの構築及び生産資材の国内代替転換などを進める観点から、その拡大に取り組むことが重要です。

一方、有機栽培は慣行栽培に比べて手間がかかる上に病虫害のリスクが高く、収量も低いといった認識もあり、現状では有機栽培に取り組む生産者は極めて少数です。

こうした状況の中で、民間の農業ビジネススクール「アグリガーデンスクール＆アカデミー」（以下「AGSA(アグサ)」という。）が2014年、福岡県朝倉市に開校し、毎年、福岡県内を中心に、有機栽培に関心のある、様々な分野・経歴の方が入学しています。同校で学ぶ有機栽培（BLOF(ブロフ)：BioLOgical Farming）は、品目にもよりますが農薬や化学肥料に頼らずに、多収穫・高品質が実現可能とされており、従来の有機栽培に対するネガティブなイメージを覆すものです。

また、有機農業の推進に関する法律に基づく国の基本方針では、国は、有機農業の推進に取り組む民間団体等と連携・協力して有機農業の推進に取り組むように努める旨を定めています。

以上のことを踏まえ、九州農政局福岡県拠点、AGSAと連携・協力して、福岡県内で農業を営むAGSA卒業生の方々取材し、取材で得られた有機栽培（BLOF）の実践の内容・成果を、農業者、農業技術の指導者その他の関係者に広く発信することとしました。

加えて、この度取材に応じていただいた方々は、親元で就農した方もいれば都市部から移住した方、経営のスタイルも専ら農業で生計を立てる方から、「農福連携」、「半農半X」として農業に携わる方と様々です。こうした方々から伺った、就農の動機や就農に必要な農地・施設の確保の方法、有機栽培（BLOF）を始めた当初の失敗談、就農先の方とのコミュニケーション、経営を成り立たせるための取組・工夫、将来の構想や目標等は、有機栽培の技術以外の側面で、有機農業の拡大に必要な取組を検討する際の参考になると考えられることから、これらの内容も、取材した方の御了解を得て掲載しています。

さらに、本資料では、アカデミー（研究機関）でもあるAGSAが、有機栽培（BLOF）の発展のために現在取り組む研究の概要を掲載しています。

本資料が、有機農業での就農を考えている方をはじめ、就農相談や有機農業の推進に取り組む行政・団体の担当者、また、有機農業に関する研究に携わる方にも参考になれば幸いです。